



落慶法要

令和二年十一月二十二日

明王山
海蔵院那谷寺



明王山海蔵院那谷寺沿革の概要
本尊 地藏菩薩及び不動明王

天喜二年 (一〇五四年)
正徳三年 (一七一三年)
弘化二年 (一八四四年)
明治七年 (一八七四年)
明治九年 (一八七六年)
昭和二年 (一九二七年)
昭和五年 (一九三〇年)
平成五年 (一九九三年)
平成三十二年 (二〇一九年)
令和二年 (二〇二〇年)

鳥飼氏(奈良輪)により創建
真言宗智山派光福寺(三箇)の末寺となる
六地藏菩薩像建立
本堂再建
奈良輪村の大火により焼失
本堂再建
近隣の大火で焼失
本堂再建(旧本堂)
四月 第六十四世住職として石井聖二晋山
弘法大師千五十年御遠忌記念として
御砂踏み霊場建立
十二月 旧本堂解体
七月 新本堂完成・入仏式挙行
九月 新六地藏像建立
一〇月 永代供養塔建立
十一月 記念碑完成、落慶法要式典挙行



永代供養墓



新墓地



六地藏

収支決算報告書、本堂建設工事概要につきましては、「本堂建立記念誌」の中に詳しく記載する予定でございます。

明王山海藏院那谷寺 落慶法要式典次第

- 第一部 記念除幕式
- 第二部 庭儀
入仏供養塔開眼
- 第三部 落慶法要
 - 一、一同着座
 - 一、御詠歌奉詠
 - 一、導師職衆入堂着座
 - 一、法要宣旨
 - 一、読経
 - 一、法要終了宣旨
- 第四部 落慶記念式典
 - 一、開式のことば
 - 一、建設委員長挨拶
 - 一、工事経過報告
 - 一、表彰状・感謝状贈呈
 - 一、来賓祝辞
 - ・ 袖ヶ浦市長
 - ・ 元袖ヶ浦市長
 - 一、世話人総代挨拶
 - 一、住職謝辞
 - 一、導師職衆退堂
 - 一、閉式のことば
- 第五部 記念撮影
 - 一、参列者一同
 - 一、来賓一同
 - 一、施工会社関係一同
 - 一、和讃講一同
 - 一、建設委員一同
 - 一、世話人一同



表彰状・感謝状の受賞者

- 表彰状**
- 授与者 海藏院那谷寺 住職 石井聖二
 受賞者 建設委員長 石井俊夫
 世話人総代 安田清高
- 感謝状（建設委員 世話人関係）**
- 授与者 海藏院那谷寺 住職 石井聖二
 受賞者 建設委員代表 小泉正道
 （建設委員四十四名の代表）
 世話人代表 石井一弥
 （世話人十二名の代表）
- 感謝状（施工会社関係）**
- 授与者 建設委員長 石井俊夫
 受賞者 石井建築設計 代表 石井秀一
 謙設計建築士事務所 齋藤謙一
 （株）平川石材 餅田則男
 （株）シバサキ建設 柴崎 誠
 （有）佛壇の松本 松本陽子

落慶法要招待者芳名（敬称略・順不同）

- 寺院関係
- 田久保永晶 袖ヶ浦市坂戸市場
 - 深野明宏 市原市青柳
 - 宮本顕俊 袖ヶ浦市阿部
 - 土澤弘太 市原市深城
 - 岡島文聖 市原市能満
 - 高橋未央 市原市能満
 - 市原市能満 釋藏院
 - 満藏寺 光明寺
 - 清淨院 無量寿寺
 - 釋藏院 釋藏院
- 来賓者
- 粕谷智浩 袖ヶ浦市長
 - 小泉義夫 元袖ヶ浦市長
 - 保坂一夫 能満寺総代
 - 佐野真悟 満福寺総代
 - 田村 勲 照崎寺総代
 - 鳥海正男 常照寺総代
 - 中村隆智 喜光院住職
 - 粕谷和俊 奈良輪地区長
 - 榎本 昇 高須地区長
 - 太田輝男 神納一地区長
 - 三浦邦夫 神納二地区長
 - 倉田一夫 橘西分区分区長
 - 風呂本充正 福王台自治会会長
 - 石井秀一 石井建築設計
 - 齋藤謙一 謙設計建築士事務所
 - 餅田則男 （株）平川石材
 - 柴崎 誠 （株）シバサキ建設
 - 松本陽子 （有）佛壇の松本
- 施工会社関係



旧本堂

本堂建立の経緯

当山は天喜二年（一〇五四年）に創建され、御本尊は地蔵菩薩および不動明王で創建以来、何と千年にもなる古刹とす。

建て替え前の海藏院那谷寺は、昭和初期に建てられ、既に百年余りの時を経て建物として限界を遥かに超えていました。何より安全面からも早急に建て替えが求められていました。

今般、檀信徒の皆様、建設委員、世話人等多くの方々から絶大なるご支援をいただき、海藏院那谷寺本堂の再建の運びとなりました。



住職挨拶

檀信徒の皆様、建設委員の皆様、世話人等多くの方々から絶大なるご支持をいただき当寺本堂の再建となりました。

天喜二年（一〇五四年）創建より、約九百七十年の間、その時の住職、その時の檀信徒がこのお寺を護持してきたから今の海藏院那谷寺があるのです。どなたにでもご先祖さまがいます、そのご先祖さまが一人でもいなければ、私たちはここにおりません。ご先祖がいたから私たちはここにいます、そして皆様のご先祖が菩提寺として護持してきたから海藏院那谷寺がここにあるということです。

当寺を護持してきたご先祖さまへの報恩感謝とご供養、安寧の地となるよう今後も法灯を守り続けてまいります。当寺は皆様に寄り添います、お寺がここにある限り永代に渡り皆様の心の拠り所となるよう努めてまいります。

住職 石井聖二



新本堂

